中国四国教育学会　教育学研究紀要　第40巻　第２部（1994年）

幼児言語の形成過程における音声変異現象の記述的研究

江　端　義　夫
（広島大学）

はじめに

幼児の言語発達について，すでに多くの研究が積み重ねられてきている。特に心理学者による欧米の研究成果の紹介には注目すべきものが多かった。日本においても，国語学者や国語教育学者によって事例研究が報告され，特定の研究所においても継続的な実験研究が行われたりした。しかしながら，幼児語方言については，十分な研究が行われないまま，この方面への人々の関心は薄らいできている。未開拓な領域でありながら，くり返しのきかない厳粛な行為でもあるために，気ままに資料を収集することができにくいからであろう。従来，数少ない事例研究の結果で，幼児言語の発達が，ひとしなみに論じられてきた。多様な幼児の言語発達については，いろいろの方法で，種々な場で，信頼できる資料が記述されなければならない。実は，幼児言語の研究は，いま，新しい段階を迎えているといってもよいのである。

本研究では，昭和47年12月24日生まれの女児（江端貴与子）を対象にして，３歳４箇月と５箇月との２箇月間の発話について，特に成人と異なる「音声変異現象」を全部抜き出して，体系的に整理し，それがどのような生理音声学上のメカニズムに起因するかを明らかにすることを目的とする。

以下の考察で使用する資料の性格は次の通りである。

(1)被検者：K（女児），昭和47年12月24日尾道市生まれ。昭和48年４月１日から福山市に移転し，３歳４・５箇月頃には福山市高屋団地に居住。

(2)家庭環境：父（愛知県生），母（広島県生），妹が二人（A≪昭和48年12月11日生≫，M≪同前≫）いる。

(3)言語環境：家庭内では広島方言を生かした言語生活であり，共通語を強いて使おうとする意識は見られない。アパートの五階に居住するために，地域社会との交流は比較的少ない。

一，３歳４，５箇月期幼児の音声変異現象

被検者Kが３歳４箇月および５箇月の２箇月間に発話した用例を分類し，いわゆる「誤用」と処理されたり，赤ちゃんことばと見なされてきたものを生理音声学上の基準で整理しなおすと，３類31種にまとめられる。これを，ひとまず，音声変異現象の体系と呼ぶことにする。その体系は，以下の通りである。

Ⅰ．調音点前行化

(1) 歯茎摩擦音（[su]）＞両唇摩擦音（[Φu]）
　ステル　＞　フテル

(2) 硬口蓋破擦音（[tsu]）＞両唇摩擦音（[Φu]）
　ツクル　＞　フクル

(3) 硬口蓋摩擦音（[çi]）＞両唇摩擦音（[Φu]）
　ヒックリカエッタ＞フックリカエッタ

(4) 後部歯茎破擦音（[ʃi]）＞歯摩擦音（[θi]）
　シテナイ　＞　θｉテナイ

(5) 歯茎摩擦音（[sa]）＞歯摩擦音（[θa]）
　～サン　＞　～θaン

(6) 後部歯茎摩擦音（[ʒi]）＞歯茎摩擦音（[de]）
　ジテンシャ　＞　デテンシャ

(7) 歯茎硬口蓋弾き摩擦音（[rjo]）＞歯茎弾き音（[ro]）
　リョーリ　＞　ローリ

(8) 軟口蓋破擦音（[go]）＞歯茎弾き音（[ro]）
　ヨゴレタ　＞　ヨロレタ

(9) 軟口蓋破裂音（[ga]）＞硬口蓋摩擦音（[ja]）
　チガウ　＞　チヤウ

(10) 歯茎硬口蓋破裂摩擦音（[tʃa]）＞歯茎破裂音（[ta]）
　～チャッタ　＞　～タッタ

Ⅱ．調音方法の変更

１．多様な変更

(1) 軟口蓋硬口蓋破擦音（[gju]）＞硬口蓋鼻音（[ɲu]）
　ギューニュー＞ニューニュー

(2) 歯茎摩擦音（[so]）＞歯茎破裂音（[to]）
　オソト　＞　オトト

(3) 歯茎鼻音（[na]）＞歯茎弾き音（[ra]）

バナナ　＞　バラナ

(4)　歯茎弾き音（[re]）＞歯茎破裂音（[de]）

レモン　＞　デモン

2．子音脱落

(1)　硬口蓋摩擦音（[çi]）＞前舌狭母音（[i]）

ヒトリ　＞　イトリ

(2)　硬口蓋摩擦音（[ja]）＞前舌広母音（[a]）

ヤブッテ　＞アブッテ

3．母音交替

(1)　前舌半狭母音（[e]）＞前舌狭母音（[i]）

タベテ＞タビテ

(2)　前舌半狭母音（[e]）＞奥舌狭母音（[u]）

タベル＞タブル

(3)　前舌半狭母音（[e]）＞奥舌狭母音（[u]）

タベテ＞タブテ

Ⅲ．調音点後行化

1．無声歯茎摩擦音（[s]）＞無声後部歯茎摩擦音（[ʃ]）

(1)　[sa] ＞ [ʃa]）

サンカク＞シャンカク

(2)　[su] ＞ [ʃu]）

スッパイ＞シュッパイ

(3)　[so] ＞ [ʃo]）

オソト＞オショト

2．有声歯茎摩擦音（[z]）＞有声後部歯茎摩擦音（[ʒ]）

(1)　[za] ＞ [ʒa]）

ゴザイマス＞ゴジャイマス

(2)　[zu] ＞ [ʒu]）

チーズ＞チージュ

(3)　[ze] ＞ [ʒe]）

カゼ＞カジェ

(4)　[zo] ＞ [^{d}ʒo]）

ゾー＞ヂョー

3．多様な口蓋化

(1)　[sa] ＞ [ça]）

オカーサン＞オカーヒャン

(2)　[ʃi] ＞ [çi]）

オシマイ＞オヒマイ

(3)　[so] ＞ [tʃo]）

ゴチソー＞ゴチチョー

(4)　[ʃi] ＞ [tʃi]）

オシロ＞オチロ

(5)　[tsu] ＞ [tʃu]）

アツイ＞アチュイ

幼児の音声変異現象は，ⅠⅡⅢで説明できる。Ⅰは，幼児によく見られる例で，舌が口腔の前方に位置する傾向である。舌の緊張度が低いので，エネルギーが少なくても発音できる。それに対してⅡは，調音点は変わらないのだが，調音の方法が異なる例である。これも，種々の用例がある。三つめは，舌の位置が口腔の奥の方へ移り，若干の口蓋化が生じる場合である。用例の殆どが，サ行音・ザ行音の口蓋化であることが注目される。

次に，音声変異現象の体系を，具体例に即して考察してみよう。

二，幼児の音声変異現象の記述

(一) ≪調音点前行化≫

(1) [su] ＞ [Φu]

昭51．5.22　pm 7：00　No11945

K○モー　フテテ　クル　ノ。ペンペンウシャギ。もう捨ててくるのよ。ペンペンうさぎは。→父

父○台所へ捨てておいで。→K

成人語は歯茎に舌尖が触れて発する摩擦音［su］である。舌の緊張は高度な技術であるために，この時期には未だ習得できていない。その代りに両唇音［Φu］が機能している。

(1) [tsu] ＞ [Φu]

昭51．5.24　pm 6：31　No11984

K○コンド　アイコガ　フクル　ノヨ。今度は愛子が作るのよ。

（ままごと遊びをしているところ。長女のKが次女の愛子に，タオルから洋服を作る仕立て遊びの順番を指示する場面。）→A

「ツクル」が「フクル」になっている。両唇音は原初的で発音しやすいからであろう。

(3) [çi] ＞ [Φu]

昭51．4．9　pm 5：46　No10994

（夕食中，妹のMがご飯をこぼした場面。）

K○ゴハン　フックリカエッタ　ノヨ。ご飯がひっくり返ったのよ。→父

父○　ゴハンオ　ヒックリカエシタ　ノヨ。→K

K○ンー。うん。

「ヒックリカエッタ」の「ヒ」[çi] は舌の調整が技巧的であるために，調音がむずかしい。いきおい，[Φu] などに交替しがちである。

(4) [ʃi] ＞ [θi]

昭51．4．8　pm 8：29　No10969

K○モー　θitenai. もう，していない。
舌が歯茎よりも前に出て，歯でかんでいる。

(5) [sa] ＞ [θa]

昭51. 5.18　pm 6 ：40　No11776

K○オカーθan　ミテー。お母さん，見て！→母
接尾辞の「～サン」の [sa] が，歯茎音でなくて，歯の前に出て発音され，[θa] となっている。

(6) [ʒi] ＞ [de]

昭51. 5.25　am 8 ：48　No11991

K○ハッチャンワ　デテンシャニ　ノッテ　ネー。アックンワ　ジドーシャニ　ノッテ　オバチャンワ　ゴミオ　モッテ　イッタ　ノ。肇ちゃんは自転車に乗ってね。あっ君は自動車に乗って，おばちゃんはゴミを持って行ったの。

母○アー　ヨク　ワカッタ　ワ。ああ，よく分かったわ。→K

(7) [rjo] ＞ [ro]

昭51. 5. 7　am11：00　No11462

（ソーセージを祖母にもらいに行く。）

K○ro：ri, ro：riɲi　tʃukau　no. 料理よ。料理に使うのよ。→父

「リョーリ」の「リョ」[rjo] が直音化して，[ro] となっている。

(8) [go] ＞ [ro]

昭51. 5. 9　am 6 ：54　No11519

K○otetega ororeta.　お手々が汚れた。→祖母

母○オテテッテ　ユワナイ　ノ。テデ　イー　ノヨ。「おてて」って言わないの。「手」でよいのよ。→K

「ヨゴレタ」の発音は容易ではないらしい。中舌や軟口蓋を微妙に緊張させて摩擦させなくてはならないからである。

(9) [ga] ＞ [ja]

昭51. 5. 6　pm 4 ：30　No11440

K○コレワ　チカチャンノニ　チョット　ニテルケドチョット　チヤウ。これは周ちゃんのにちょっと似ているけれど，ちょっと違う。→母

「チガウ」が「チヤウ」と発音されている。[g] より少し前方の調音点の [j] が選ばれている。

(10) [tʃa] ＞ [ta]

昭和51. 5. 9　am 6 ：56　No11521

K○otʃitatta. 落ちてしまった。→祖母

（朝食中，卵の黄味が落ちた。このように言う。祖母に拭いてもらっている。）

「チャ」が言い難かったというよりも，「～チャッタ」の「タ」に影響されて，「～タッタ」となった。

以上，10類型について，成人語での調音点よりも前方で調音される事例を記述した。これらは，いかにも幼児の発話らしさを醸しだしている。即ち，舌を十分には使用しきっていないという印象を与えるからである。口先の発音というイメージが，これらにふさわしいものである。

（二）≪調音方法の変更≫

調音点の位置は成人語とほぼ同じでありながら，調音の方法を変更している一連の語がある。調音は，上の顎と下の顎，舌，口腔，鼻腔，咽腔その他の器官でなされるが，語によっては，調音部位を成人語と同じにしつつも摩擦音を破裂音に変更したり，あるいは，その逆にしたりして，様々な工夫が見られる。

1．多様な変換

上顎に舌が接触する位置を固定し，調音の方法を種々に変更している例が，次のように見られた。

(1) [gju] ＞ [ɲu]

昭51. 5. 7　am 7 ：55　No11456

K○ɲu：ɲu: kurukuru tʃitakara oreretʃatta'. ʃupu:n. 牛乳をくるくるとしたから，汚れてしまった。スプーンが。→父

「ギュ」拗音は，高度の技術を必要とするものである。これの代りに，硬口蓋鼻音 [ɲu]（ニュ）が発音された。

(2) [so] ＞ [to]

父○これ（餅）はね，おばあちゃんが作ってくれたのよ。→K

K○オトトデ　アションデル　マニ。お外で遊んでいる間に？→父，祖母

祖母○遊んでいる間に。

上の例では，「オソト」が「オトト」となっている。歯茎摩擦音が歯茎破裂音に変更している。[s] の発音は舌の緊張を必要とするので，とかく [ʃ] で代用されがちである。しかし，「オショト」と言わずに「オトト」となっているのは，「ト」に影響されて，誤った語形で記憶されたものが再生されたと考えられる。

(3) [na] ＞ [ra]

昭51. 5. 6　pm 5 ：03　No11449

K○バラナオ　カッテ　キタ。バナナを買ってきた。→父

上の例では，「バナナ」が「バラナ」と発音されている。

(4) [re] ＞ [de]

昭51. 4.15　am 9 ：06　No11127

K○コレー　demon. これ，レモン。→父

母○キタナイカラ　イレテ　オキナサイ。汚いからコップの中に入れておきなさい。→A

K○イヤーン。いやだ≪そう言うと，レモンを食べてしまう。≫
A○（レモンのカスを出すためのコップを台所へ取りに行き，母にわたす。）→母
「レモン」を「デモン」と発音している。弾音の［re］よりも，調音の簡単な［de］の方が，幼児には手っとり早いというべきか。

昭51．4.21　am 8：03　No11229
≪新聞のチラシを母とKとAとで見ている。≫
K○ダーメン。ラーメン。ラーメンだ。ラーメンだ。→母
K○バラナ。バナナだ。→母
A○メーメン。ラーメンだ。→母
上の例で，Kは，すでにラーメンのことを成人語ではラーメンと発音するのだ，と自覚しているので，初めに思わず，「ダーメン」と発音した後，すぐに言い改めて，「ラーメン」と言った。

2．子音脱落

一音節中の子音が脱落して，母音があらわになった形で使われる例が若干認められる。

(1) [çi] ＞ [i]

昭51．5.10　pm 8：02　No11663
（お話の中の筋書きについて母とKとが話す。）
K○イトリデ　トンダ　ノ。一人で飛んだの？→母
母○ヒトリジャ　ナイ。エーコチャント　タマゴトフターリデ　トンダ　ノヨ。一人ではない。栄子ちゃんと卵と二人でいっしょに飛んだのよ。→K
「ヒトリ」の「ヒ」[çi] は硬口蓋を激しく摩擦してつくる音である。労力を減らして発音すれば，［i］になってしまう。

(2) [ja] ＞ [a]

昭51．5．7　am12：11　No11473
（次女のAが菓子袋を破って無駄にするのを，長女のKが叱る。）
K○アブッテワ　イケンッテ　イッテルノカラ。イケン。破ってはいけないって言ってるのに。だめ！→A
上の例で，「破っては」を「あぶっては」[abuttewa] として，［j］を脱落させている。

昭51．5.18　am 6：40　No11777
（KとAとがままごと遊びをしている。）
K○アブレターッテ　ユー　カー。破れたって言うか？
A○イー　ノヨ。いいのよ。→K
この場合も，「ヤブレタ」でなくて，「アブレタ」である。[jaburu] が [aburu] になっている。

昭51．5.29　am 9：07　No12102
（朝食中，パンを手でちぎって，食べる。）
K○アブッタ。アブッタ　ノ。やぶった。やぶったの。→母
母○ちぎったの。→K
上の例で，「紙を破る」「袋を破る」と同じ動作と思いこんで，Kは食パンをちぎって，「パンをアブッタ」と言ったのである。「ちぎる」と「やぶる」の用法差を，初めてここで教わったことになる。

とくに［j-v］＞［v］(/sv/＞/'v/) において考えられることは，先の例でも「リョーリ」が「ローリ」に，「ギューニュー」が「ニューニュー」に発音されていた如く，わたり音［j］の入った音の調音が不慣れであるのかもしれない。だから，［j］の認識はできていても，発音ができなくて，母音だけが残るという結果なのであろう。「ヤブル」が「アブル」としか発話できないのは，そのような知覚と生理運動系とのアンバランスを示しているものと解釈される。

3．母音交替

一音節（一拍）中の母音が揺れ動く事例について考えてみたい。動詞の語幹を固定して語尾を aiueo と変化させて四段活用を形成する「書く」などの場合があるかと思えば，「食べる」下一段活用動詞のようにe段に語尾が固定しているものもある。

以下に「食べる」動詞のいろいろな母音交替の事例をあげるが，これは3歳4，5箇月期における幼児が動詞の活用体系を習得しようとして模索しつつある状況である。音声事実としては母音交替であるゆえに，事実本位に記述する。

(1) [e] ＞ [i]

昭51．4.15　am 9：05　No11125
母○これ，誰が食べたの？　≪食べかけのリンゴがある。≫
K○tabitano．　食べ終わったのよ。→母
母○食べかけじゃないの！→K
上の例では，「タベタノ」というべきところを，「タビタノ」と言っている。直前に母が「食べたの」と言っているのに，それを聞きとった上で，「タビタノ」[tabitano] を発しているのが注目される。翌月になっても，やはり，[tabite] なのである。

昭51．5.21　am 8：45　No11822
K○タビテ　チョーダイ。オモチャ　タビテル　ノ。食べてちょうだい。おもちゃ，食べているのよ。→父
≪食事の前に，卓上に沢山のおもちゃを並べて，子供たち三人でままごと遊びをしていた。そこへ

父が来たので，報告した。≫

上の例では，「食べる」という動詞が2回使用されたが，両方ともに，「タビテ」とある。

昭51．5.30　pm5：46　No12131

≪父はカードを書くのに忙しくて，ついに夕食が最後になってしまった。ごはんもおかずも残っている。冷めるから早く食べるようにと，Kが父に勧める。≫

K○タビテー。食べて。→父

この場合も，「タベテ」でなくて，「タビテ」である。

(2) [e] > [u]

昭51．4．6　am8：52　No10914

K○オシロ　イッテ　ナニ　タブル　ノ。お城へ行って何を食べるの？→母

母○オムスビ。オムスビワ　ドーヤッテ　ツクル　ノカネ。おむすび。おむすびは，どうやって作るのかね？

K○オシヲ　チュケテ　ノリ　チュケテ　シュル　ノヨ。お塩を付けて，海苔をつけて，するのよ。→母

ここでも，「タブル」基本形が用いられていて，「食べる」は4段活用となっている。次の例も同じである。

昭51．4．6　pm0：25　No10918

K○オネーチャン　ヨク　チュカエレルカラ　ハチデタブル　ノ。お姉ちゃんはよく使えるから箸で食べるの。→父母

上の例のように「食ぶる」が基本形だと見なされているから，四段活用の母音変化をするのであろう。かと思うと，次の例のように，連用形に，意外な語形を発話した。

(3) [e] > [u]

昭51．5.27　am8：20　No12031

K○ミヨコ　マダ　タブテ　ナイカラ　オイトコー。三女の観世子は，まだ食べてないから，タオルをしまわずに，置いておこう。→M

「タビテ」は既によく使っていた。さらに今度は，「タブテ」と言った。しかし，「タベテ」は発話していない。成人が「食べて」と言っているのに，Kは「タビテ」と「タブテ」しか使用しない。

以上の事例から，「タブル」4段活用動詞の運用と見なしてしまうこともできないことは，「タブテ」で明らかとなった。活用形の可能性を駆使して，幼児なりに文法体系の幅を確認している状況が，理解されるのである。

(三) ≪調音点後行化≫

口腔内の調音点の位置が成人語のよりも後方である発話を以下で取りあげて記述し，その意味を考察する。

1．無声歯茎摩擦音［s］>無声後部歯茎摩擦音［ʃ］

(1) [sa] > [ʃa]

昭51．5.11　pm6：15　No11690

K○コンナニ　タクシャン　ヨ。こんなに沢山よ。→母

(いかの刺身が子供用にも沢山，もりつけてあるのを見て，喜んで言う。)

昭51．4.15　am8：56　No11120

K○oka :ʃaɲni juttegoran. お母さんに言ってごらん？→A

A○oiʃi:. おいしい。→父

昭51．4.18　pm7：42　No11184

K○onɛ:tʃan imaʃanʃai. お姉ちゃんである私は，今3歳。→母

A○アイコモ　ʃanʃai. 愛子も3歳。

母○チガウ　ワヨ。ニサイ。違うわよ。2歳。→A

以上の例のように，[sa] を [ʃa] と口蓋化する場合は，非常に多い。この方が簡単に発音でき，しかもエネルギーが要らないからでもある。

(2) [su] > [ʃu]

「ス」は発音できなくて，「シュ」どなっている。

昭51．4.17　pm5：55　No11159

K○アイコト　オネーチャント　オカーチャント　オルシュバン。愛子とお姉ちゃんとお母さんとで，お留守番。→父

(戸外に，いつものカラスが見えない。ベランダで。)

K○モー　シュグ　クル　ワヨ。もうすぐ，来るわよ。→父

ここでも，「すぐ」が「シュグ」となっている。

昭51．5.14　am7：26　No11734

K○オチチャッタカラ　シュプーンデ　タベテル　ノ。(ゆで卵が落ちてしまったから，スプーンですくって食べてるの？→M

M○ンー。シュプーンデ。うん。スプーンで。→K

語頭の場合も語中尾でも，等しく [ʃu] であって，決して [su] ではない。[su] は発音できない。

(3) [so] > [ʃo]

昭51．4.19　pm5：54　No10996

母○キヨコチャン，ホーレンソーノ　オシタシ　ユウン　ヨ。貴与子ちゃん，Aの皿の上のおかずは，「ほうれん草のおしたし」と言うのよ。→K

K○ホーレンショーノ　ハッパ。ほうれん草の葉っぱ。→母

母○反抗児！→K
上の例で，母が「ほうれんそう」と言って，真似をさせようとしたのに，Kは「ホーレンショー」としか言えなかったのである。
昭51．4.18　pm 6：41　No11180
（散歩にゆく途中，Kはアパート敷地内のコンクリートに膝をぶっつけて，膝こぞうをすりむいた。父に薬をぬってもらう。）
K○オショトデ　コロンダノダ　ネー。お外で転んだのだねえ。→父
父○ンー。うん。≪手あてをつづける。≫
「おそと」（お外）も「オショト」と言っている。

2．有声歯茎摩擦音［z］>有声後部歯茎摩擦音［ʒ］
(1) [za] > [ʒa]
昭51．4．6　pm 6：28　No10932
K○オハヨー　ゴジャイマス。お早うございます。→父
「ザ」が「ジャ」になっている。文末の「ス」は無声化している。
(2) [zu] > [ʒu]
昭51．4.16　am 8：45　No11144
（食事のおわりに）
K○tʃiːʒu tabetʃaū. チーズを食べてしまうよ。→母
「チーズ」を「チージュ」と言っている。
昭51．5．5　am 7：29　No11151
（母がパンに卵をつけて焼いたのを食卓に出す。）
K○ジョージュニ　ヤイテ　クレル　ネー。上手に焼いてくれるね。→母≪母の料理が上手だとほめる。≫
(3) [ze] > [ʒe]
昭51．4.12　pm 7：02　No11061
（夕食中に，父だけが梅干しを食べる。）
K○オトーチャン　カジェ　ヒーテルカラ　ウメボシタブル　ノ。お父さんは，感冒をひいているから，梅干しを食べるの？→母
母○ソー　ヨ。そうよ。→K
(4) [zo] > [ᵈʒo]
昭51．5.19　pm 8：07　No11806
（絵に「象」が出てくる。それを言う。）
K○ᵈʒo：．象。
「象」は「ゾー」と言えなくて，「ヂョー」である。

3．多様な口蓋化
(1) [sa] > [ça]
昭51．4.23　am 7：13　No11282
K○オカーヒャン，アンナノ　アルー。オチャワンガアル　ネー。イロイロ　アル　ネー。お母さん，あんなのがある？　お茶碗があるね。いろいろあるね。→母
(2) [ʃi] > [çi]
昭51．4.19　am 7：17　No欠
K○oçimai. korewa. kondo kore. 卵はおしまい。これは。今度はこれ（リンゴ）を食べよう。→母
(3) [so] > [tʃo]
昭51．4.15　pm 7：20　No11139
K○ゴチチョーチャマイチタ。ごちそうさまでした。
K○ゴチチョーチャマデチタ。ごちそうさまでした。
母○ハイ。はい。→K
K○ユッタ　ヨ。言ったよ。→父
(4) [ʃi] > [tʃi]
昭51．5．6　am 7：28　No11436
K○hantaiɲi tʃitano. テーブルを反対にしたの。→母
(5) [tsu] > [tʃu]
昭51．5.23　am 8：31　No11852
K○アチュイカラ　マットク　ノ。ゆで卵が熱いから冷めるまで待っておくの。→母

まとめ

本稿では3歳半の女児の音声変異現象に3類型31種の変相を帰納し，具体例に即して生理音声学上の原因を考察し記述した。
なお参考文献は紙幅のつごうで省略した。